

# 大牟田市立高取小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校区には豊かな自然が多く残っており、また、学習を支援して頂ける人材や施設も豊富である。このような中、本校では、環境教育と福祉教育を中心に据えながらESDに取り組んでいる。ESDを推進するにあたっては、主として生活科や総合的な学習の時間において、他者や社会、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる児童の育成をめざし取組を行ってきている。

環境教育では、自然を愛したり、自然を大切にしている地域の人と関わったりすることで、自然を大切にしたいという心を持ち、自ら環境へ働きかけ、環境を守り、受け継ごうとする協働的实践力を培うことをねらいとしている。

福祉教育では、人間尊重の精神を基盤にして、道徳的心情を育成し、福祉に対する理解を深め、お互いに助け合い、協力し合い、住みよい社会をつくるための実践的態度の育成をねらいとしている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| (1) 1年生「みんななかよし」        | (生活科)       |
| (2) 2年生「レッツ・ゴー 町たんけん」   | (生活科)       |
| (3) 3年生「わくわくドキドキお話探偵団」  | (総合的な学習の時間) |
| (4) 4年生「心のキャッチボール」      | (総合的な学習の時間) |
| (5) 5年生「高取クリーンタウンチャレンジ」 | (総合的な学習の時間) |
| (6) 6年生「ピースオンワールド」      | (総合的な学習の時間) |

## 3 特徴的な活動事例

< 4年生 総合的な学習の時間 単元名「心のキャッチボール」 >

### (1) 目標

- ①お年寄りの方との交流を通して、その人の思いや生き方にふれ、自分でできる援助を進んでしようとするができる。
- ②お年寄りの方を援助したり、介助したりする人との関わり合いを通して、支え合いながら、共に生きる社会をつくっていかうとする気持ちを持つことができる。
- ③自ら課題を解決するための方法を考え出し、その活動を通して、コミュニケーション能力を身に付けることができる。

### (2) 実践の展開

- ①認知症について考えよう
- 絵本教室を通して、認知症について理解するとともに、お年寄りの方に対して、自分たちとの関わり方について課題を見つける。
- ・認知症は「大変」「かわいそう」ではなく、相手の思いを知ることが大切であることに気付く。
  - ・身近なお年寄りの方のために、自分たちにできることはないか考える。



## ②延寿苑を訪問しよう（2回）

### ○1回目の訪問をする。

- ・5年生からのアドバイスをもとに、自分たちが考えた遊びを中心に1回目の交流をする。
- ・よりよい関わり方をするために、どうすればいいか話し合い、2回目の訪問の計画を立てる。

### ○2回目の訪問をする。



- ・入居者の方のベッドメイキングや車いす体験を通して、施設の方々から、お年寄りの方の思いを教えてもらったり、自分たちで改善した遊びをしたりして、交流をする。
- ・延寿苑の入居者の方との関わりを深めるために、年賀状を書いたり、学習発表会の招待状を作ったりする計画を立てる。

## ③学習したことを発信しよう

### ○ユネスコスクール集会で学習したことを発表する。

- ☆大牟田市や全国の高齢者の割合
- ☆延寿苑での交流の様子
- ☆交流から学んだこと

- ・活動を発表することを通して、これからのお年寄りの方々との交流の仕方について、考えを振り返る。



## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・子ども達は課題解決の活動を通して、新たな課題を自分たちで見つけ、それらに取り組んでいくことで、友達と協力して学ぶことのよさや大切さを実感することができた。
- ・地域のお年寄りの方に目を向けることができ、困っている方に積極的に声をかけようという児童が増えてきた。

### ○課題

- ・子ども達が考えた遊びを中心とした交流になっているため、施設の方との連携を深め、入居してある方のためになる交流ができるようにしていきたい。